

VOLUNTEER ANGLE

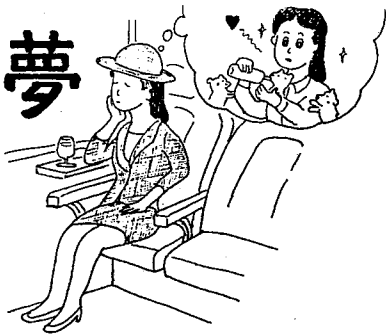
私は4月下旬にARKへやってきました。はじめに思ったことは数多くの動物の世話をしているということです。仕事の内容は散歩、えさやり、掃除等ですが、毎日クタクタです。しかし私はとても充実した毎日を送っています。この施設がなかったら、この動物達はこうなっているんだろうか？ 保健所へ連れて行かれる運命になった動物もいるでしょう。

ARKで働いて、避妊、去勢の必要性を実感しました。なぜなら多くの野良犬がやってくるからです。また私は犬を離し飼っているのをよく見かけます。たぶん多くの飼い主さんは、今保健所でどれだけの多くの犬猫が殺されているのかを知らないのだと思います。

私は毎日イギリスから来たボランティアの人たちと仕事をしています。私は英会話は堪能ではないので、身振り手振りが必要です。そのイギリスからの人々から学ぶことはたくさんあります。動物に対する接し方、考え方がとても良いです。

また私は、動物に接していて考えさせられることが多くあります。毎日動物の世話をしているようで、逆に動物たちから学んでいます。

◆三浦綾子◆



体力のいる仕事が長時間続く。でもそれは誰かに言われてやるのではなく、やるべきことが山積みにあるからだ。あの震災で多くの動物たちがARKにやってきた。どの動物たちもとても恐ろしい体験をしており、それぞれが住み慣れた安全な家を後にしている。

私がARKにきたのは地震後しばらく経ってからだったが、収容されていた多くの動物達には、飼い主を失うなどから、強いストレス症状がみられた。また、2度と飼い主と会えない動物たち、その経験のあまりもの恐ろしさから、今だに人間を近寄せない動物たちがいます。

ARKの動物はどんどん増え、ますます彼らの「散歩」が大仕事になりましたが、私たちボランティアは動物たち1匹1匹を個々に考えることを忘れてはいけません。時間と資金が許す限り、動物たちは十分な世話と愛情、可能な限りの快適な生活環境を受けるべきなのです。

ARKとイギリスの動物保護所の私の知る限りの主な違いは、動物たちを預かる期間です。いずれの場合も飼い主に住む家がなく、動物たちを預かるわけですが、ARKには少なくとも1年の月日を通じて過ごしている動物もいます。時々愛犬の顔を見にやってきた飼い主と対面する彼らの喜ぶ姿を見るのはうれしいですが、その後すぐにまた帰っていく飼い主の姿を見送る動物たちの顔を見るのはとても辛く、動物達自身のストレスにもなるでしょう。こういう光景はイギリスでは見ませんでした。

そして野良犬の問題。日本には野良犬や半野良犬状態の犬が生きて行くには少し問題があるように

思います。ARKにやってくる野良犬達の健康状態はとても悪く、人間を非常に恐れます。これらの犬達を更正させるためにも細かい愛情と気配りが必要なのです。イギリスの動物保護所でボランティアをしていた時、野良犬は1匹もいませんでした。

日本のこの暑さと湿気も大きなイギリスと比べ伝染病や皮膚病を流行りやすくしていると思います。それなのに薬代や治療費はとて高く、手にしにくい現状があります。

◆クレイ ジェイコブ◆

ARKでボランティアをしたいって？ それならまず知っておいて欲しいことがあります。ARKにいる動物はかわいい子犬や子猫ばかりではありません。動物の世話には休みがなく、時には単調な作業になります。ARKに定休日ありません。動物たちが要求することや彼らへの世話は何よりも優先されます。9時5時の一般事務の仕事はありません。動物は言葉が話せず、何が起るかわからないことも多々あり、夜動物たちが無事眠りのとにつくまでどんなに遅くならうとも私達の仕事は終わらないのです。

ARKはボランティアを募集しています。スタッフと一緒に効果的に仕事をこなす、スタッフでさえ慣れるのに時間のかかるような仕事も覚えねばなりません。ボランティアの一人一人に仕事を教えるのに時間がかかります。ですからなるべく長期間定期的に通ってくださる方をお願いしたいのです。ARKで得た経験はそれ以上の何かをあなたと与えてでしょう。

ここでの仕事のほとんどは動物達と直接接することのないものですが、排水溝の掃除や歩道にするためのセメント混ぜから犬のブラッシングまで、ARKの運営にはかかせない仕事です。スタッフもボランティアも、西洋人も日本人も、1つのチームとして一緒に仕事をし、一緒に笑い、日々浮上する新たな問題を一緒に解決するので。私達は互いに学び、言葉の壁を越えて友情を育んでいるのです。

私が動物保護組織のボランティアを始めてもう10年になりますが、ふと、私はなぜ地位や名誉にほど遠い、朝から晩まで腰の痛みことばかりしている人生を選んだのだろうかと考えてしまうことがあります。そんな時、私が看病をして健康を取り戻した犬、住む家を得た犬、友達になった犬、かなりひどく虐待されていたためもう一度人間を信頼できるよう犬にと接していて、突然私に信頼の情を示してべろりと手を握ってきた犬を見ます。その瞬間は私にとって何ものにも変えがたく、やはり私の人生に間違いはなかったと思うのです。で、それでもボランティアになってくれますか？ ◆アン・マリー マクギバン◆

世界中のどこにでもあなたに助けを求めている動物はいます。けがをしたり、人間に傷つけられた野生の動物、たとえ人に飼われていても状況が変わってしまった、虐待されている動物などです。私は野鳥保護や食肉にされそうな動物を救うなど様々な動物保護活動に関わってきましたが、やはり犬や猫などペット達の保護活動が一番多いです。各団体によって動物たちの扱いなど方法は違いますが、目的は同じ。動物たちを愛し、保護し、最良の生活環境を与えるということです。

私はただイギリスでしていたこと、つまり動物の世話をするために日本にきました。収容所の運営援助はボランティアにまかされています。これは日本と変わりありません。私の出会った日本人

ははなない人で自分の自由な時間を動物保護のために費やしています。

ARKの動物達は、特に犬たちは愛情に飢えています。なぜなら彼らの状況の変化から今だ非常に怯え、ストレスを感じているからです。ある動物たちは震災で大きな精神的打撃を受け、ある動物は人間不信になり、散歩や掃除だけでない彼らへの愛情とケアを欲しています。見返りはとても微笑ましいものです。普段人を恐れしっぱを足の間にはさみこんでいる犬がしっぽを振って見せたり、おなをさすってとせがんでひっくり返ってみせる犬の姿をみるだけでもいいものです。

私は今ここで老犬2匹と同居しています。2匹とも耳が聞こえず、1匹は盲目でもう1匹は片目しかありません。彼らは私ともう1匹の猫(2匹の犬をおもちゃのように思っている)との共同生活を楽しんでいるようです。

私は是非動物と暮らすことを皆さんにお勧めします。動物達はあなたの人生を明るくしてくれます。私を仲間として受け入れてくれる猫や犬やねずみ達のいない生活を私は今だ経験したことがありません。

◆フラン モーガン◆



動物保護所は世界中どこでも人手が足りない。イギリスで私はレスター アニマル エイドでボランティアをしていました。そこは元々犬のための救済センターですが、いつも誰かが平門の前にいるような動物を捨てていくので、ウサギなどモルモットにされた動物たちの世話もしていました。

これは全ての慈善団体に言えることですが、動物福祉団体などは運営他全てを寄付とボランティアに頼っています。レスターアニマルエイドにボランティアがいなければ、再び歩けるようになったり、遊べるようになったりした犬の数は限られていたでしょう。しかしながらアークの場合、もしボランティアがいなければ、1月の震災で引き取った被災動物達を1匹たりとも救えなかったでしょう。厳しい見方をすれば、被災動物の大部分は保健所へ送らざるを得なかったでしょうし、つまり、その大部分の動物達を死に至らしめなければならなかったのです。

動物福祉関係でボランティアをしようという人は間違いなく動物を愛しているでしょうし、1日中動物達と過ごすことを楽しんでいるに違いありません。

しかしアークの全てのボランティアには、動物たちと正しく接した彼らを正しく扱えるようになるために、肉体的に厳しかったり、長時間の仕事が要求されます。

私はよく日本人のボランティアの方々に励まされます。彼らは自分の自由な時間をさいて動物保護のためにアークに来ているのです。私は日本を去っても、イギリスで動物救済のボランティアをし続けたいですし、アークで得た経験をおいに活用したいです。 ◆アン ハルフォア◆